

St. Luke's International University Repository

Nursing Learning Lab to Promote Active Learning of Undergraduate Students —Results of the 2017 Nursing Learning Lab Survey—

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐居, 由美, 中溝, 倫子, 宇都宮, 明美, 蛭田, 明子, 沢口, 恵, 桑原, 良子, 森島, 久美子, 大原, まどか, 藤田, 俊介, 中嶋, 秀明 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/13168

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



短 報

学部生の能動的学習を促す看護実習室の整備

—2017年度実習室調査結果報告—

佐居 由美¹⁾ 中溝 倫子¹⁾ 宇都宮明美¹⁾ 蛭田 明子¹⁾ 沢口 恵¹⁾
桑原 良子¹⁾ 森島久美子²⁾ 大原まどか²⁾ 藤田 俊介³⁾ 中嶋 秀明¹⁾

Nursing Learning Lab to Promote Active Learning of Undergraduate Students —Results of the 2017 Nursing Learning Lab Survey—

Yumi SAKYO¹⁾ Rinko NAKAMIZO¹⁾ Akemi UTSUNOMIYA¹⁾ Akiko HIRUTA¹⁾
Megumi SAWAGUCHI¹⁾ Yoshiko KUWABARA¹⁾ Kumiko MORISHIMA²⁾
Madoka OHARA²⁾ Syunsuke FUJITA³⁾ Hideaki NAKASHIMA¹⁾

[Abstract]

The Nursing Learning Lab (NLL) at St. Luke's International University, College of Nursing, attempted to improve its learning environment to facilitate undergraduate students' self-study. Certain results have been achieved through reflection on student opinions by the NLL committee members, students, and the full-time nursing skills lab instructor.

In the survey conducted in 2017, the average score for the degree of satisfaction with active learning was 7.8 (out of 10). The reason for this is an environment of sufficient material resources and good human resources, which leads to comfort and autonomy. Specifically, the response was, "I think that the system in which the instructor of the lab will consult with me is encouraging, when I have a difficulty in learning aspects that I do not understand by myself".

We will continue to work together with students to overcome issues such as self-learning space, number of articles, and methods for use and continue efforts aimed at enhancing the learning lab so that students can learn actively.

[Key words] Nursing Learning Lab, nursing students, active learning

[要 旨]

聖路加国際大学看護学部実習室小委員会では、実習室を学部学生の能動的学修を推進する環境として整備するための活動を行っている。学生実習室委員会の発足による学生の意見の反映、常勤実習室助手の自己学習支援等により、一定の成果をあげている。2017年度の調査では、実習室が能動的学修に適しているか、について、10段階で回答を得たところ、平均値は7.8であった。その理由として、物的人的環境の良さがあげられ、快適性、自主性を引き出すと答えている。

具体的には、「予習をして自分で考えた上で具体的に困っている点について実習室の先生が相談にのるシステムが自律を促していると思うから」等であった。今後も学生との連携とともに、自己学習スペースや物品数、使用上のマナーなどの課題を克服し、学生が能動的に学習できる実習室を目指した取り組みを継続していきたい。

1) 聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science
2) 聖路加国際大学総務部・St. Luke's International University, General Affairs and Administration
3) 聖路加国際大学大学事務部・St. Luke's International University, Academic and Student Administration

〔キーワード〕 看護実習室, 看護学生, 能動的学修

I. はじめに

聖路加国際大学看護学部実習室小委員会では、実習室を学部学生の能動的学修を推進する環境として整備するための活動を行っている。3年前より学生実習室委員会と協働し学びの主体である学生の意見を実習室環境に反映している。また、専任の実習室助手による自己学習支援を実施し、一定の成果をあげている^{1)~3)}。

昨今の入院患者の在院日数の短縮化、医療の高度化、患者の権利意識の増強などにより、看護学生が実習において体験できる看護技術は限定され、卒業時の看護学生の看護実践能力の低さが話題になって久しい。臨床看護実践能力には看護技術力が含まれ⁴⁾、実習において患者に安全に看護技術を実践するには、その看護技術を学生が十分に習得できていることが大前提である。技術習得のためには、学生の能動的な学びを可能とする場と教材が必要であり、それが可能となる看護実習室の整備が不可欠である。実習室小委員会では、実習室環境を改善するために、学生実習室委員会と協働で2014年度よりアンケート調査を実施している(表1)。本稿では、2017年度の調査結果の一部をこれまでの結果と共に報告し、実習室の現状と看護学部生の能動的学びを促す実習室のあり方について報告する。

II. 実習室アンケート調査

1. 実施方法

実習室についてのアンケート調査は、学部生365名を対象にウェブおよびアンケート用紙にて行った。調査にあたっては、学生課に調査実施届を提出し承認を得た。

表1 実習室調査

実施年度	回答者数(名)	回答率(%)
2017	218	53.6
2016	231	59.3
2015	201	53.9
2014	93	25.5

表2 2017年度回答者の概要

学 年	人数	%
1 年生	43	19.72
2 年生	63	28.90
3 年生 (学士20回生含む)	46	21.10
4 年生 (学士19回生含む)	62	28.44
3 年次編入生 (学士21回生)	4	1.83
合 計	218	100.00

〔倫理的配慮〕 アンケート依頼画面(アンケート用紙の冒頭)に、回答内容は個人が特定されないこと。結果は集計して公表することを明記した。

調査内容は、「実習室利用の科目、頻度」、「実習室利用に関しての物品、ベッドの不足の有無」、「実習室支援員の支援に関して」、「実習室の環境に関して」等である。今年度は、あらたに、「実習室の学修環境(人的環境含む)は能動的学修に適しているか」という質問を追加した。調査期間は、2017年5月25日から2017年7月31日であり、218件(回答率53.6%)の回答を得た。

2. 結果

1) 回答者の概要(表2)

回答者は、1年生43名(19.7%)、2年生63名(28.9%)、3年生46名(21.1%)、4年生62名(28.4%)、3年次編入生(学士21回生)4名(1.8%)であった。

2) 使用科目

実習室で自己学習を行った科目は、基礎看護技術論(2年次前期後期科目)140件、ヘルスアセスメント方法論(1年次後期科目)89件、コミュニケーション実習(1年次前期科目)88件、小児看護学(3年次前期科目)61件、看護展開論実習46件(2年次後期科目)の順に多かった。

3) 自己学習時の物品・ベッドの不足について

(1) 物品の不足について

自己学習時に必要物品の不足について、4件法(「思う」から「思わない」)で問うたところ、「物品が不足していない(あまり思わない、思わない)」との回答が約7%であった。過去の調査では、昨年度9%、一昨年度33%であり(表3)、年々改善傾向がみられている。

表3 実習室の物品は足りているか(%)

	2014年	2015年	2016年	2017年
そう思う	38 (41.3)	64 (33.0)	110 (48.3)	89 (41.45)
やや そう思う	35 (28.0)	66 (34.0)	96 (42.1)	100 (46.5)
あまり 思わない	16 (17.4)	48 (24.7)	21 (9.2)	14 (6.5)
思わない	3 (3.3)	16 (8.3)	1 (0.4)	1 (0.5)
利用して いない				11 (5.1)
合計	92	194	228	215

表4 不足している物品 回答件数

2014年	2015年	2016年	2017年
45	230	42	25

表5 ベッドは足りているか (%)

	2014年	2015年	2016年	2017年
そう思う	11 (12.1)	37 (19.2)	72 (31.4)	50 (23.2)
やや そう思う	21 (23.1)	34 (17.6)	68 (29.7)	54 (25.0)
あまり 思わない	41 (45.1)	54 (28.0)	57 (24.9)	66 (30.6)
思わない	18 (19.7)	68 (35.2)	32 (14.0)	35 (16.2)
利用して いない				11 (5.1)
合計	91	193	229	216

不足している具体的な物品については、25件の回答があり、「技術を練習する時に使用するリネン類（9件）」や「教材モデル（全身、陰部、注射、浣腸、導尿、吸引含む）（4件）」等が挙げられていた。不足する物品についての回答数は、2015年度は250件であったが（表4）、年々減少しており実習室環境が整備されていることがうかがえる。

（2）ベッドについて

ベッドについては、「足りていた」と回答した学生は、2017年度は、約48%（そう思う23.2%、ややそう思う25.0%）であった（表5）。過去3年間をみると、2014年度35%、2015年度37%、2016年度61%であった。実習室の改修を行った2016年度には、「ベッドが足りていた」との回答割合が上昇しているが、今年度（2017年度）は、自己学習時のベッドが充足していたと感じている学生割合が減少している。ベッド数には限りがあるため、自己学習時間の調整等を検討する必要がある。

4) 実習室の使用について

実習室を使用したい時に使用できたかという点に関しては、半数以上（54%）の学生が、「使用したい時にできた（そう思う・ややそう思う）」と回答していた。過去の調査結果では、2016年度76%、2015年度57%であったため、今年度は「使用したいときに使用できなかった」と回答した割合が多くなっている。実習室は複数学年で共有使用しているため、時間割上の科目配置等の影響で、他学年の使用により「実習室を使用したいときに使用できなかった」と思われる。

5) 実習室助手の支援体制について

専任の実習室助手による支援が「行き届いていた（そう思う・ややそう思う）」と回答した学生は、181名（83.3%）であった（表6）。「行き届いていない（あまり思わない、思わない）」の割合は8.8%であり、その理由として、「自己学習支援時間外で不在であった」という回答が7件あった。実習室が使用可能な時間帯は7～20時（平日）であり、実習室が演習等で使用されていなければ、いつでも学生は自己学習を実施することができる。

表6 実習室助手の支援は行き届いていたか (%)

	2014年	2015年	2016年	2017年
そう思う	26 (28.9)	95 (51.1)	135 (60.3)	98 (45.2)
やや そう思う	54 (60.0)	71 (38.2)	66 (29.5)	83 (38.3)
あまり 思わない	8 (8.9)	18 (9.7)	16 (7.1)	14 (6.5)
思わない	2 (2.2)	2 (1.1)	7 (3.1)	5 (2.3)
利用して いない				17 (7.8)
合計	90	186	224	217

専任の実習室助手は1名であるため、多くの学生が自己学習にくる時間帯（平日夕方、土曜等）に、自己学習支援を行っている。

実習室助手の支援体制については、2014年度調査より、「行き届いていない（あまり思わない、思わない）」の回答率は10%前後である。9割の学生には実習室助手による自己学習支援に満足していることがわかる。

6) 利用する学生のマナーについて

16.5%の学生が「マナーがよくなかった」と回答した。2016年度は14.9%であり、実習室利用者のマナーは改善がみられず、やや悪化している。

マナーが悪い具体的な内容として38件の記入があった。多い順に、「リネン類が汚いまま放置されている（13件）」、「使用後の物品が正しい場所に戻されていない（8件）」、「利用後ベッド周囲の環境を整えていない（5件）」、「禁止行為をする（飲食をする、音楽をかけるなど）（4件）」、「ベッドや物品を占領する（4件）」、「真面目に学習しない（4件）」等があげられていた。使用後の整理整頓不足、他者の練習を阻害する行為が、しばしばみられることが明らかになった。学生の能動的学習を推進するためには、使用者がマナーを守ることが重要だとされている³⁾。利用者のマナー改善について、学生実習室委員会と相談のうえ、何らかの対策を講じる必要がある。

7) 実習室使用上の満足度について

実習室利用の満足度（10点満点）は、平均7.36であった。2015年度6.87、2016年度7.44と推移しており、利用者は現状の実習室には概ね満足していると考えられる。

8) 能動的学修状況としての実習室

今年度の調査では、実習室が「能動的学修に適しているか」という質問項目を新たに追加し、「適している」度を10段階で回答をもとめた。その結果、6段階以上と回答した学生は181名（90.5%）であった。

その理由を自由記述で求めたところ、50件の回答があった（表7）。内容は、「物理的・人的環境のよさ」、「自主性を引き出す環境」、「快適（不便だと感じなかった）」に分類することができた。

表7 能動的环境として適している理由（自由記述抜粋）

1. 物理的・人的環境がよい：19件
 - 1) 学習に必要な物品がある（9件）
 - ・物品などが揃っていたから（4件）
 - ・実際のものを使って練習できるので、実践の場で焦ることがないため（2件）
 - ・スマホで映像を見ながら主体的に学習ができている
 - ・学習したい技術の物品が揃っているため
 - ・物品も揃い動画学習のツールもあるので、知識の行動化を能動的に学修するには適している
 - 2) 学習支援者がいる（6件）
 - ・先生もいてくださるので、質問がすぐできる（2件）
 - ・LA（ラーニングアシスタント）の人が、分からなくて困っているときに頻りに声をかけてくれたので、人的環境は良いと思ったから（2件）
 - ・わからないことがあったら周りの友達に聞いたりして解決できることが多かった
 - ・予習をして自分で考えた上で具体的に困っている点について実習室の先生が相談にのるシステムが自律を促していると思うから
 - 3) 物品と学習支援者の両方が揃っている（4件）
 - ・アドバイスや分からないことを聞ける人がいて物品がいつも揃っているので学習しやすかった（2件）
 - ・実習室の環境も実習室の方の対応も、自己学習する上で満足できるものだったから
 - ・必要な物や人が揃っていると思う
2. 自主性を引き出す環境：11件
 - ・自主的に練習していると思うから（2件）
 - ・出向かなければならないため能動的に活動しないとけないため（2件）
 - ・今は自分が努力すれば練習時間にも練習場所にも困らないため
 - ・自分から使おうとすることで活用できるから
 - ・自分で調べてから練習する必要があるところ
 - ・自分の好きなタイミングで行えたので
 - ・人から言われるのではなく自分からアツルームに
 - ・時間が少ないながらも自分で時間を見つけて練習できた
 - ・実習室が空いていれば自由に使用できる
3. 快適（不便だと感じなかった）：6件
 - ・実習室があって良かったと思ったからです
 - ・快適に練習しています
 - ・静か
 - ・不便だと感じたことを今のところ思い出せないから
 - ・利用している時に不自由を感じた経験がないため

「物理的・人的環境の良さ」については、19件の回答があった。具体的には、「実際のものを使って練習できるので、実践の場で焦ることがないため（2件）」、「物品もそろい、動画学習のツールもあるので、知識の行動化を能動的に学修するには適していると思います」といった物品の充実に関することや、「予習をして自分で考えた上で具体的に困っている点について実習室の先生が相談にのるシステムが自律を促していると思うから」といった支援員の充実が、実習室での能動的学習を促す環境となっている理由として挙げられていた。

また、「人から言われるのではなく、自分からアツルームに出向かなければならないため能動的に活動しないとけないため（2件）」、「自分から使おうとすることで活用できるから」等の回答が10件あった。

その他、「不便だと感じていない」、「不自由を感じた体験がない」、「静か」といった、実習室を「快適」に使用しているというコメントが5件あった。



写真 ラーニングcommonsでの自己学習支援（筋肉注射）

Ⅲ. 今後に向けて

2017年度の調査結果より、実習室は能動的学習が可能な場所として概ね整備されているといえよう。だが、自己学習時のベッド不足、自己学習のための新たな場の確保、マナーの悪化が課題として明らかになった。

マナー悪化に対しては、学生実習室委員会と相談し、学生が主体的にマナーを守ることができる対策を講じる必要がある。

自己学習の場については、2017年度後期より、実習室使用時間帯に、ラーニングcommonsでの自己学習支援を行っている（写真）。スペースの関係から練習可能な看護技術は限定されるが、ラーニングcommonsは常に学生に開放されているため、自己学習支援の場として有効的に活用することができる。

ベッドの不足、場の確保については、本結果を提示し関連部門に対応を要望したところ、2018年度には改善される見通しである（関係者の迅速な対応に心から感謝する）。

実習室小委員会では、今後も学生実習室委員会との協働のもと、関係各位の協力を得ながら学生の能動的学習に適した環境整備につとめたいと考えている。

引用文献

- 1) 佐居由美, ほか. 聖路加国際大学看護学部実習室の現状と課題. 聖路加国際大学紀要. 2015;1:113-117.
- 2) 佐居由美, ほか. 学生にとって学びやすい実習室を目指した取り組み—学生実習室委員会との連携および実習室助手の役割に焦点をあてて—. 聖路加国際大学紀要. 2016;2:78-82.
- 3) 中溝倫子, ほか. 看護学部生の能動的学修を推進する実習室環境の整備. 聖路加国際大学紀要. 2017;3:73-78.
- 4) 松谷美和子, ほか. 看護系大学新卒看護師が必要と認識している臨床看護実践能力—1日目看護師への面接調査の分析—. 聖路加看護学会誌. 2012;16(1):9-19.